

令和元年度 第1回中央区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	令和元年6月28日(金)午後1時～2時30分
会 場	新潟市民プラザ(NEXT21・6階)
出席者	中央区自治協議会委員 27名(欠席11名) 教育委員 上田晋三教育委員 小野沢裕子教育委員 事務局 高居和夫教育次長 渡邊剛教育総務課長 緒方猛地域教育推進課長 高橋裕幸施設課長 山田哲哉学校支援課長補佐 和泉哲章学校人事課管理主事 浅間直美中央公民館長 吉田英津子中央図書館長 佐々木徹中央区教育支援センター所長 他3名 傍聴者 1名 マスコミ0名
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶(上田教育委員、小野沢教育委員) 3 令和元年度教育委員会の施策について(教育次長) 4 意見交換(司会 中央区教育支援センター所長)
上田教育委員	開会/あいさつ ・今年度中央区を担当、ガラス関係の仕事をしています。以前、新潟市小中学校PTA連合会の会長を務めました。時代が変わる中で子どもたちが健やかに明るく元気に過ごすにはどうすればいいのか、皆さんと考えたい。
小野沢教育委員	・BSNラジオの番組を持っています。子どもは地域の宝。子どもが夢を大きな声で話せて、それをサポートできる大人が周りにいる地域になればいいな、と思っていますので、いろいろな話を聴かせて下さい。
教育次長	施策説明 高居教育次長から、「令和元年度教育委員会の施策について」の説明をする。 ・昨年は西区でたいへん痛ましい事件が発生し、子どもたちの登下校の安全が課題になっていますが、地域の皆さまから多大な協力をいただき感謝しています。 ・エアコンの設置については、私どもの不手際や入札の不調等で、夏休み明けまでの完了が25校程度、1月末までに全校完了の予定です。 ・さて、今年度の施策を説明します。一つ目の柱は、外国語教育の充実です。外国語指導助手(ALT)の入る回数の増加、英語力のある教師の配置(区に2人)。また、ICT教育の推進と環境整備は、タブレット型コンピュータや液晶テレビ、電子黒板を利用した授業を進めます。

・二つ目の柱は質の高い教育です。初めに指示的風土づくりの推進で、子どもたち、教職員がお互いに認め合い助け合い、多様性を認め合う風土が必要です。いじめの早期発見、積極的ないじめの認知を進めます。不登校対策に未然防止、早期発見、早期対策を進めます。

・幼児教育施設、小学校、中学校との一貫教育にも取り組んでいます。地域と学校パートナーシップ事業は、学・社・民の融合による教育の中核事業で、本年度から万代高校を加え 166 校に地域教育コーディネーターを配置しています。来年度からコミュニティスクールをモデル校で実施し、令和 4 年からすべての小中学校で導入する予定です。また、公民館や生涯学習センター、図書館との連携を深めています。

・最後に三つ目の柱が、働き方改革・環境整備から学校・教職員の多忙化解消です。これについても取り組みを進めています。

意見交換

司会

施策についてのご質問をお願いします。「こうあるべきではないか」といったご意見や、「こうすると、もっとよくなるのではないか」といったお言葉、ご提案などをいただけるとありがたい。

自治協委員

・ALTの質をどう担保していくのか。
・小学校では算数や国語が大切だと思う。これらの時間が、英語教育で減らされるのを危惧しています。

学校支援課

・現在 41 名のALTがいて、月一回の定例会をもったり、こちらからアドバイスしたり、毎週一日力のあるALTから来てもらって、教材や資料を作ったりしています。
・外国語が入ってきて、国語や算数の時間数は変わっていません。各学校で工夫して時間をねん出しています。

自治協委員

・力があるALTとは、どういう意味ですか。発音のことですか。

学校支援課

・私の解釈としては、子どもたちが楽しく英語に親しみ、進んで会話をしようとする意欲を引き出すようなALTが、力のあるALTという意味で使いました。

自治協委員

・いじめ対策で、担任や学校の評価が下がるので、隠ぺいしがちになるのでは。

学校支援課

・新潟市はいじめ認知件数が全国で一番多いのですが、これは、学校現場がアンテナを高くして子どもたちの様子をよく見て、いじめと認定したら教育委員会に報告をしている成果だと考えています。

地域教育推進課

施策説明(保護者・地域・学校の連携について)

・地域と学校パートナーシップ事業 学(学校)社(社会教育施設・公民館・図書館)民(家庭・地域・企業等)が子どもの成長と地域の活性化のために目線を合わせて一緒に進める事業で、この役割を担うのが学校に配置している地域教育コーディネーターです。300 人ほどおり、学校に執務室を持っています。ほかの県・政令市にはこのような部屋がなく、新潟市は全国から注目されています。

・地域教育コーディネーターは、地域活動や学校教育に熱心な方で、推進会議から推薦された方に委嘱しています。市の非常勤職員で、勤務時間は最大で 800 時間、週 20 時間前後と短い時間で、尽力していただいています。

・地域と学校パートナーシップ事業の活動の柱は4点です。一つ目は、学校、社会教育施設、地域活動を結ぶネットワークづくり。例えば、給食を地域の方と先生、保護者が一緒に食べながら将来のことを語り合うとか、です。

二つ目の柱が地域人材の参画と協働の支援です。例えば、習字の得意な方から書写の指導を教員のかわりにしてもらおうとか。音楽なら琴、体育の水泳とか、企業の方から面接の指導とかもあります。また、合同の合同防災訓練をする学校も増えてきました。

三つ目は、学校における地域の学びの拠点づくりです。学校は、人、もの、コトを持っています。これを地域の皆様にお使いいただくものです。絵本の読み聞かせを図書館の人から来てもらって、学校図書室でやったり、笹団子づくりを地域の人から調理室で教えてもらったり、逆に中学生がパソコン教室でコンピュータを地域の方に教えるとかです。

これらの取り組みを地域に発信するために、定期的にコーディネーター通信を発行しています。公開授業や講習会を参観していただく学校もあります。ウェルカム参観日を中央区では、上所小と沼垂小で行います。

この成果ですが、平成 25 年度くらいから約 5 万件のボランティア活動がなされています。参加者は年々増加し延べ 33 万人、1 校あたり約 2,000 人が参加しています。また、子どもたちが地域に出かけて行って、地域貢献活動が増えています。

子どもたちの意識調査では、先生以外の大人から褒められたり、認められたりしてうれしい。地域のことを調べるのは好きだなど。肯定的な評価が約 8 割になります。教職員からも、自己肯定感が育まれるなど 8、9 割が肯定的評価をしています。地域の方からもこれらの活動で、子どもたちから元気をもらっているとか、住民同士の結びつきが深まったとか、地域の活性化につながっているとか、肯定的評価をたくさん頂いています。

意見交換

自治協委員

・私は見守り隊で交通指導をしています。子どもたちがほとんどあいさつをしてくれませんが、小学校1・2年生は6、7割なんです。5・6年生はほとんどスルーです。その辺の年頃の気持ちはわかるのですが、あいさつくらいはしてほしいなという気はします。

学校支援課

・最近よくニュースで聴く児童相談所というのは、具体的にどういう組織ですか。

・あいさつについては、コミュニケーションのスタートですから、やはりしっかりとできていないといけないと思います。

教育総務課

・児童相談所は、教育委員会ではなく、新潟市長の部局、こども未来部の所管になります。教育というより、福祉、児童福祉全般の組織のなかにある部署になります。

学校支援課

・学校支援課の方で、生徒指導案件で、子どもの虐待、問題行動等について、必

要であれば、児童相談所と情報を共有し、連携しながら子どもの指導、支援にあたっています。

自治協委員

・この前の地震のとき、柳都中に 800 人も避難してきて、ジュニアレスキューの経験のある子どもたちがマットを敷くのを手伝ってくれました。まさにパートナーシップ事業の成果だと思います。学校と地域も連携が深く、震度5以下だったので市の職員は来なかったのですが、地元に住んでいる校長先生がカギを持っていて開けました。できたら、最低でも一人は学校の近くの職員を採用してほしいと思います。

学校支援課

・教員の人事異動では、職住近接に取り組んでいます。今後も進めていきます。

自治協委員

・6月18日の地震で、日和山小学校では、カギを持っている区役所の方が来ませんでした。学校が開かないので、灯りがついた隣の柳都中に向かいました。日和山小の開設時間、閉設時間、避難者は何人だったのでしょうか。防災会議のときに説明したいと思います。

学校支援課

・資料によると、日和山小に学校の管理職 2 人、事務職員 3 名、市の職員も参集し、避難者を受け入れたということになっています。開設時間等は、手元のデータがありません。おそらく、すぐではなかったと推察されます。

自治協委員

・地域教育コーディネーターが 166 校に 300 人いらっしゃるということですが、力量にバラツキがあったりして、スキルアップの研修をしていますか。
・企業と連携して活躍している事例はありますか。

地域教育推進課

・年 2 回の全体研修、区ごとに 2 回以上の研修をしています。また、服務研修や新任研修もあります。各区の教育支援センターから指導主事が学校訪問をして、アドバイスを相談をしています。
・古町でお菓子業者と一緒にスイーツを開発したり、JAと協力して農産物を新潟駅や修学旅行先で販売したり、けやき通りと一緒にイベントを立ち上げたりしています。

自治協委員

・新任の先生が、ベテランのコーディネーターにひきづられたことがありました。

地域教育推進課

・コーディネーターの方に全部お任せということにならないようにしたいと思います。

自治協委員

・コーディネーターの推薦をする推進会議のメンバーや、コーディネーターの年齢制限、一校あたりの人数は。

地域教育推進課

・推進会議は、コミュニティ協議や育成会議、児童民生委員の方、PTAの方、社会教育施設の方、それと学校職員、校長、教頭などです。年齢制限はありません。平均で 50 歳くらい。人数も決まっていますが、最大で 4 人の学校があります。ただ、報酬は 4 人分ではありません。1 人分を 4 人で分けるのが現状です。

自治協委員

・スクールソーシャルワーカーの配置状況と活動は。

学校支援課

・新潟市で 4 名配置しています。学校からの要請で派遣しています。

自治協委員

・赴任する校長先生は赴任先の内容を知っているのでしょうか。任期が 1 年 2 年の方は、非常に保守的で閉鎖的になっています。防災活動でネックになっています。

学校人事課

・十分な引き継ぎをしていると考えています。

自治協役員

・コミュニティスクールの学校運営協議会制度及びその評議会と今までやってきた評議会の違いを教えてください。

地域教育推進

課

・コミュニティスクールは、現在制度設計中なので、確定した話ではないのですが、コミュニティスクールというのは、地域に皆様の考えを学校に伝え、子どもたちをどう育てていくのかを地域と話し合いながら進めていこうというものです。学校評議員をより活性化したような取組になると思います。細かいことは、これからお伝えしていきたいと思います。

閉会

司会

・教育委員より感想や意見をいただきたいと思います。

上田教育委員

・新潟市の教育コーディネーターについては、大変進んでいると他市で評価されています。引き続きご協力をお願いします。災害時には活かされたということでしたが、課題も残ったということで、今後は直すべきところは直していきたいと考えています。

小野沢教育委

員

・ジュニアレスキューの子どもたちの活躍はとてもいい話ですね。頑張っていることをもっともっと広めていくことが大事だと思います。いろんな人たちと助け合いながら生きていくことが大切だと思います。朝の見守り隊もやめないで続けてほしいと思います。

自治協議会会

長

これからも地域と学校がパートナーシップ事業をともに歩み、子どもたちの育成をしっかりと見守っていかなければならないと感じています。子どもは国の宝です。教育関係者のますますの努力を大いに期待しています。